



支援型 事例②

特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会 車いす整備・修理技術 及び広報技術向上による 女性障がい者の自立支援プロジェクト

実施期間：2022年8月～2024年7月

対象地域：プノンペン都・ポーサット州
シェムリアップ州

#障がい者支援

#女性支援

#能力開発

団体概要

「飛んでけ！車いす」の会は、障がいや国境の垣根を越え、だれもがその人らしく生きる社会の実現を目指し、活動を行っている。日本国内で使われなくなった車いすを整備し、世界各地の必要とする人々へ、直接送り届ける取り組みを行う。

プロジェクト目標

車いすを長く安全に使用できるよう、障がい者当事者や施設スタッフ、その家族らが自ら整備・修理技術を習得し、同時にIT・広報技術の活用を通じて手芸品の売上を向上させ、経済的な自立基盤を強化することを目指す。

事業概要

カンボジアでは車いす整備士が不足しており、車椅子を適切に整備・修理できる人材が不足している。また、現地の障がい者支援団体の広報力不足も、障がい者の自立への課題であった。本事業では車いす整備技術の移転と現地トレーナー育成を通じて、車いすが長く安全に利用できるように支援するとともに、広報・情報発信力の強化により現地団体の自立的な運営体制を構築することを目的に実施された。作成された整備マニュアルは、研修参加者への配布のみならず、プノンペン社会福祉局へ提供された。

背景

障がい者の自立を阻む社会的障壁

プノンペン都では、障がいを持つ女性は社会的障壁により自立困難な状況にある。カンボジアの障がい者支援団体でも車いすの整備・修理を担う人材がいないことから、多くの車いすが放置または不適切な状態で使用されていた。さらに、障がい者支援団体のひとつであるCambodian Handicraft Association (CHA) では、ホームページを更新できず情報発信が停滞し、英語対応も特定スタッフに依存するなど、自立的な運営体制の脆弱さが課題であった。CHAが自立的かつ持続的に活動できる体制の構築を目指し、本事業が実施された。

主な活動と成果

活動① 障がい者、施設スタッフ及び障がい者家族・友人の車いす整備技術の習得

障がい当事者や家族らが自ら整備・修理を行えるよう、クメール語版マニュアルや工具を整備。全4回の講習では習得状況を可視化し、現地の代用部品活用法を盛り込んだ副読本も提供され、現場での対応力が養われた。

成果：月平均の整備台数が、0.4台から目標超の7.8台へと大幅に増加した。受講者が友人の車いすを修理するなどの広がりも見られ、自立的な管理・修繕体制が構築された。

活動② 2.車いすの整備修理技術指導のできるトレーナーを育成

有望な受講者の中からトレーナー候補を選抜し、トレーナー研修を実施。候補者が講師を務める実践形式で指導スキルの定着を図り、研修が持続的に行われるための体制支援を構築した。

成果：計4名の現地トレーナーを育成。日本の実施団体担当者の渡航が困難な際も、現地トレーナーが自ら車いす整備講座を開催し、持続可能な体制が確立された。

活動③ パートナー団体CHAの広報力強化とオンライン販売の実現

CHAの広報強化のため、スタッフが自ら更新できるウェブサイトの構築を支援し、使用システムに関する講習やAIツール活用研修を実施。あわせて動画撮影・編集の技術を支援し、広報コンテンツを内製化できる体制構築が支援された。

成果：担当者不在で停止していた広報活動が再開し、2024年7月までに5本の動画が公開された。継続的な情報発信が可能となり、活動や製品の訴求力向上と販売促進につながった。



インパクト

「整備して長く使う」意識変革—自発的な技術波及も

本事業を通じて、現地の障がい者団体では「車いすは壊れたら新しくもらうもの」から「自ら整備し長く大切に使うもの」へと意識が大きく変化した。全5回のワークショップを経て、修理の要不要を適切に選別し、修復不能な機体から部品を再利用する技術が定着し、障がい者団体の施設内に放置されていた未整備車両が劇的に減少した。また、技術を習得した受講者が近隣住民へ講習を行ったり、講習を受けた団体が空港の車いす整備を開始したりするなど、地域での自発的な技術波及が確認されている。



学び・教訓

不測の事態に対応する柔軟な事業運営の重要性

事業期間中、コロナ禍による渡航制限や現地団体の有望スタッフの離職、想定を下回るITリテラシーといった予期せぬ困難が多発していた。これに対し、実施団体は日本からの遠隔指導への切り替えや、現地トレーナーによるワークショップの開催など、主体性を尊重した柔軟な対応を行った。特に広報では、高度なウェブサイト構築から、AIツールを活用した簡便な運用へと方針転換したことが、持続可能な管理体制の構築に寄与した。実施団体による一方的な支援ではなく、現場の能力やインフラの現状を詳細に把握し、共に悩み補完し合う関係性を築くことが、不測の事態においても事業を継続させる鍵となったと考えられる。

今後の展望

持続可能な整備体制を全国へ

今後は、作成したクメール語版シラバスやマニュアルを活用した車いす整備技術の全国的な普及と、現地団体を拠点とした指導者ネットワークによる地方都市への技術移転が期待される。また、広報の継続支援により、障がい女性が製品を発信し、経済的自立を持続できる仕組みが強化される見込みである。

実施団体インタビュー：

https://www.jica.go.jp/domestic/sapporo/information/topics/2024/1540321_52738.html

成果物（CHA Youtube）：

<https://www.youtube.com/@CambodianHandicraftAssociation>